

琵琶湖疏水施設の 国宝・重要文化財指定 記念シンポジウム

明治期の竣工以来、豊かな水の恵みで京都のまちを支え、人々の暮らしを守る「琵琶湖疏水」。
この度、琵琶湖疏水の諸施設のうち、大津市から京都市にかけての24カ所が国の重要文化財に、
うち5カ所が国宝に指定されました。

この歴史的な出来事を記念し、今もなお、現役で活躍している琵琶湖疏水の役割や価値を将来に
わたって継承するため、幅広い方々に琵琶湖疏水の魅力について知っていただくためのシンポジウ
ムを開催します。

日時

令和7年 **11月22日(土)**
13:30~16:10(開場 12:30)

参加費

無料

会場

ロームシアター京都 サウスホール
京都市左京区岡崎最勝寺町 13

定員

600名

コーディネーター

パネリスト



丁野 朗氏

公益社団法人日本観光振興協会
総合研究所 顧問



磯田 道史氏

国際日本文化研究センター
教授



北河 大次郎氏

文化庁 文化資源活用課
主任文化財調査官



山田 有希生氏

京阪ホールディングス株式会社
常務執行役員



船越 英一郎氏

俳優

ほかにも、
魅力的なゲストの方が
登壇予定!

13:30 開会

13:55 基調講演「琵琶湖疏水施設の国宝・重要文化財指定について」
北河 大次郎氏（文化庁 文化資源活用課 主任文化財調査官）

14:40 パネルディスカッション「琵琶湖疏水の魅力と可能性について」（仮題）
～魅力的な登壇者が、琵琶湖疏水の魅力を語ります！～

16:10 閉会

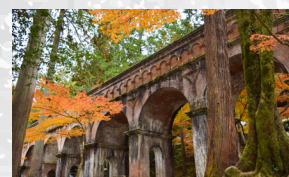
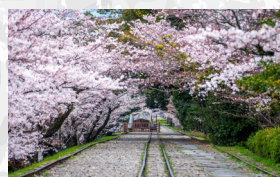
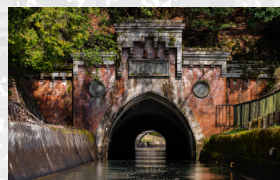
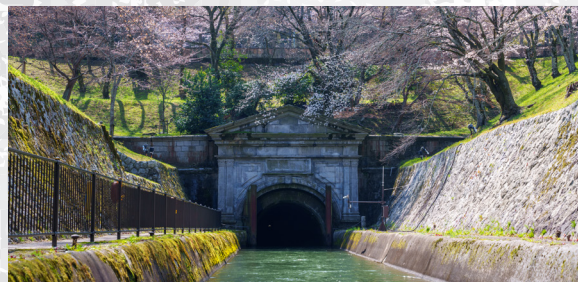
「琵琶湖疏水」とは？

明治維新における事実上の東京遷都によって大きく人口が減少し、衰退の危機に瀕していた京都のまちを再生と飛躍に導いたのが、京都と大津を繋ぐ希望の水路「琵琶湖疏水」です。

この琵琶湖疏水の建設に当たっては、工部大学校（現在の東京大学工学部の前身の一つ）を卒業したばかりの田邊朔郎をはじめとする若い才能が抜擢され、当時の日本では、大規模な土木工事は外国人技師の設計監督に委ねるのが普通だった中、設計から施工まですべての工程を日本人の手で担った、最初の事例となりました。

多くの困難を乗り越え完成した琵琶湖疏水は、日本初の一般供給用水力発電所の稼働をはじめ、当時の革新的な技術によって京都の暮らしとまちを発展させました。そして、完成から130年以上経った今でも現役のインフラとして京都のまちと暮らしを支え続けています。

明治の時代に京都のまちの再生の願いを託し、逆境と苦難を乗り越えた壮大な事業について、思いを馳せてみませんか。



～ 申込方法 ～

「京都いつでもコール」へ、10月7日（火）から10月21日（火）までに、
電話・FAXまたは電子メール（ホームページ）でお申し込みください。

※応募者多数の場合は、抽選のうえ10月末頃に、はがき・メールでご連絡します。

★お申し込みの際は、①氏名（フリガナ）、②電話番号、③郵便番号・住所、④同伴者人数（1名まで）、
⑤同伴者の氏名（フリガナ）をご連絡ください。



（申込先）京都いつでもコール

TEL:075-661-3755 FAX:075-661-5855

※朝8時から夜9時まで受付（年中無休）、おかけ間違いにご注意ください。



京都いつでもコール

